

## 《どうでもいい話、その 610》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！ 週に一日、地元の中学校で特別支援学級の授業支援ボランティアを行っています。先週の保健の授業は1～2年生5人（女3人男2人）を相手に性教育の授業でした。若い女の先生が、タブレットの情報資料から小・中学生向けの性教育における映像をプロジェクターでホワイトボードに映し、説明しました。内容は、最初に子供と大人の身体の違いについて裸の絵を映し、映像の上に先生がマジックペンで、大人の女にはオッパイの絵を描き、男女の股には陰毛を書き入れました。次に赤ちゃんの出来る過程、そして女性の性器の仕組みについての説明で、先生は「女性はオシッコのする穴とウンコの出る肛門の穴との間にもう一つ穴があります。それは膣といいます。その膣に男がオチンチンを入れると精子が出て、卵巣というところに精子は行きます。女性の卵巣は28日くらいに一回卵子ができ3～4日ほどいます。その時に精子が来ると卵子と合体しそれが妊娠といい赤ちゃんができます。精子と合体しない場合、卵子は膣から血液になってでます。それは月経（生理）と言います。その期間は小学生高学年頃から50歳くらいまでです」など、他にも性について具体的に女の先生はきちんと説明しました。そして授業を受けた後、中一の女生徒は「なんだ、そんなことインターネットのエロ本に書いてある」だって。我々の時代の教育とは全く違い、世の中進歩しています。

岩波より